

NO.8

スタジイ

(ブナ科)

椎の実をつける「椎の木」です。島根県内には、このスタジイとコジイ（ツブラジイ）の2種が自生していますが、よく見られる椎の木のほとんどはこのスタジイです。実はコジイより大きく、長さ1.2～2 cmほどになります。あくがなく生でも食べることができるほどで、昔はこの実を拾って炒って食べたものです。実は、マテバシイと同じく2年目に成熟します。福島・新潟県以西の本州、四国、九州と济州島に分布しています。

5月中旬ごろ、枝先に淡黄色で長さ8～12 cmの細長い花をたくさんつけ里山を彩ります。遠くから見ると、鮮やかな若葉のように見えますが、近くでよくみると垂れ下がった花がたくさん集まっていることが分かります。

高さ20 mほどになる常緑の高木で、神社などには直径が1 mをこす大木も残っています。庭木や防火・防風樹としても家の周辺によく植えられています。材は堅く、器具や船舶材に使われる他、シイタケのほだ木や炭の材料にも利用されます。葉の先端が急に細くなって尾状に長くのびていることや、裏面に灰褐色の細かな毛が密生しており、表と裏の色合いが大きく異なることなどがこの葉の特徴です。



▲ スタジイの葉（表と裏の色の違いに注目）



▲ スダジイの花穂



▲ スダジイの遠景：花が咲いた状態を遠くから見ると薄緑の芽立ちのように見える



▲ スダジイの実：炒って食べるとおいしい